

中国四国土を考える会総会研修会を開催しました。

2025年4月4日



勝部会長

中国四国土を考える会は、3月10・11日に、広島県にて総会・研修会を開催しました。今回の研修会は、【乾田直播の為のほ場作り《機械体系編》】をテーマに作業機の実演会を行いました。実演会のために集められたトラクタは全14台、1

台を除いた13台が会員の持込みで、作業機は25台中11台が会員提供。中四国土を考える会を通して、乾田直播という新技術

に取組む仲間を増やしていきたいという気持ちがカタチになった実演会となりました。実演に先立ち勝部会長(ニューホランドT6-160、バーチカルハローDJ400SP、ミックスロータリーPF400を島根県出雲市から持込み!)から、「今回の研修会を通して、一人でも多くの方に乾田直播に興味をもって欲しいと思いますし、実践されている方にはご自身の作業体系を見つめ直す機会としていただければと思います。」との挨拶の後、実演会が始まり、参加者の皆さんは一台ごとの作業を注意深く見つめていました。今回の実演会では重永農産の作田様に、ほ場と合わせて数多くの作業機(7台)とトラクタ(1台)をご提供いただきました。感謝申し上げますと共に一日も早い入会をお待ちしております(笑)。



60名以上の参加者がそれぞれの目で作業機を見極める



折りたたみの4mミックスロータリー



金田吉弘氏

実演会後は「尾道ふれあいの里」に移動し、秋田県立大学名誉教授 金田吉弘氏から「作物生産性を支える土の力を高めよう」の演題でご講演をいただきました。昨今大きな課題となっている高温障害の被害を助長する要因をご説明いただいた後、それを対策するための機械的な手法についてお話しいただきました。「今のような機械化が普及する以前

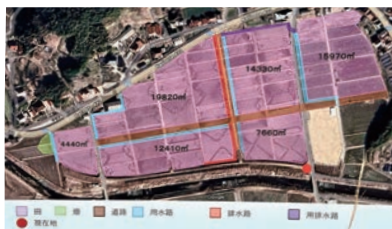


3年目とは思えない重永農産様の播種機

に行われていた米の多収穫コンテストで表彰された方々は、作土を二分割の土層として捉えていた。当時の耕起は反転(耕耘)+碎土(代かき)だったが、現代は攪拌+攪拌で、土壌から見ると現代の耕起は排水性が低下して異常還元に繋がりがやすい状況になっている。」とのことで、ロータリーとプラウの比較や、慣行栽培に対する乾田直播栽培の優位性をお話しいただきました。

翌朝の総会では全ての議案が承認されました。

総会後は【乾田直播の為のほ場作り《特別編》】として、FOEAS(地下水位制御システム)を自前で施工する株式会社 恵 様を訪問して、代表の宮迫様から、導入の経緯と現状についてお話しいただき、解散となりました。



現状の区割りと大きく異なるほ場整備後の完成予想図



宮迫様

